



染谷 健太

日本大学生産工学部  
株式会社 ボックスワン  
製作部

### 「失敗から見つけた、本当にやりたいこと。」

幼い頃からものづくりが大好きで図工の授業が1番の楽しみでした。大学では機械工学を学んでいましたが、興味とのギャップから関心が持てず、就職活動では機械分野を活かす事が出来ませんでした。結果焦りや迷いで本当にやりたいことが分からなくなり、新卒としての就職は不正解となってしまいました。もう一度自分自身を見直すことを決意し、そして見つけた答えは「自分の手でものをつくりたい」でした。その中で最もフィーリングが合ったのは木工です。木工でも様々な種類がある中でイベント業界を選んだ理由は、より多く、様々な造作物を手掛けられると思ったからです。

### 「図面の寸法だけを信用するな、事件は現場で起こる。」

展示会の木工屋は造作することだけが全てではありません。設営し納めるまでが仕事です。絡みのない単独なものに関しては問題ないのですが、絡みが生じる場合は注意すべき点があります。例えば900mmのパネルを10枚並べたら±10mm程度の誤差が生じるのはよくある話であり、幅3000mmの小間に基礎壁オクタノルムが建てば、総幅は2970mmとなり-30mmの誤差が生じます。たとえ図面の寸法どおりに造作しても現場で納まらなければ大幅なロスとなります。このロスを無くするには現場の経験は必要不可欠であり、造作においても責任が問われます。しかし、ロス無く納まった時は自分の成長が感じられる場面でもあります。

### 「目指すのは怒らず興る大工。」

入社して3年目、まだまだ経験不足です。会社の尊敬する上司のように現場を指揮することも、手の込んだ造作も、学ばなければならないことが沢山あります。現場では臨時の大工さんも私にとっては先輩同然です。より多く、早く吸収し、力を付けていきたいです。また、安全には特に意識していきたいと思います。臨時の大工さんを指揮する立場であり、大工として最も大事な身体を守るの自分自身の意識、気遣いであると考えています。



# next HERO

## 明日の君へ…

新入社員が入社動機から仕事に対する想い、期待、不安、将来のビジョンを語る

### 「空間が創り出す人とのつながりと感動。」

大学時代、イベント企画運営団体に所属しており、当時から、“人が集まる空間創り”をすることにやりがいと楽しさを感じていました。就職活動を目前とした時、イベント企画運営を突き詰めたいという思いもありましたが、幅広くこの業界を見た際、現在のディスプレイ業界に出会いました。人が集まる空間、それは、人とのつながり、時には感動を作り出します。それを実現できる空間プロデュースという手法に興味を持ったと共に、イベント展示会開催において重要である、会場設営～空間演出を突き詰めたいと思いました。そこで、長年のノウハウを活かし空間プロデュースを行っていた、弊社に入社を決めました。

### 「数多くの成功体験。」

人は、たとえ困難な場面に遭遇しても、成功体験があると、過去の自身の成功体験をイメージすることができ、困難を乗り越えることができると思います。私は、現在入社して3年目ですが、入社当初、物怖じせず、なんでも挑戦する。をモットーに、とにかく、早く成功体験を増やすことを意識し、行動してきました。もちろん、多くの失敗もしましたが、失敗があったからこそ、学びがあり、新たな成功体験を増やすこともできました。今後も、物怖じしない精神を大切に、数多くの仕事にチャレンジし、さらなる成功体験を増やすことで、自分自身の自信に繋がってきたいです。

### 「クライアントと共にゴールを。」

仕事をする上で最も心がけていることは、「伝えたいことを共に共感する」ということです。この業界に入って、多種多様な企業の方々と接することが多く、それぞれの特徴を捉えることはとても難しいです。まずは、その製品の特性や他社との違いを知ることが、空間デザインをしていく上で重要になります。そのため、ヒアリング力を高め、まずは、相手が意図していることを捉えることを意識しています。一方向の提案ではなく、常に、クライアントと試行錯誤し、少しの可能性を掘り下げていくことで最後の落としどころを一緒に考える、そうすることで、お互いが、win winとなる良い関係作りをしていきたいです。



沼田 麻里

聖心女子大学 文学部  
歴史社会学科 人間関係専攻  
株式会社 フジヤ  
東京第1イベントコミュニケーション事業本部  
第2事業部